

平成29年度

# 八児小だより

学力特集号

平成29年11月10日  
北九州市立八児小学校

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

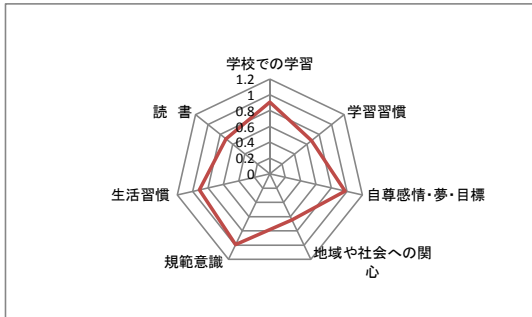
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く選択式の問題は正答率が高い。 ・古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む問題は正答率が低かった。	下回っている
国語B	・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える選択式の問題は正答率が高い。 ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く、記述式の問題は正答率が低かった。	下回っている
算数A	・整数の乗法の計算をする問題は正答率が高かった。 ・図形の底辺と面積の関係を求める問題は正答率が低かった。	下回っている
算数B	・示された条件を基に、適切な式を立てる短答式の問題の正答率が高かった。 ・示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、記述する問題は、正答率が低かった。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

- ・将来の夢や希望を持っているや宿題についてしていると答えた児童の割合は、昨年度よりさらに増え、全国平均を上回っている。しかし、家で計画を立て、1時間以上の勉強をする割合は減少している。
- ・授業のはじめにめあてが示され、授業の最後に学習内容をふり返る活動は、児童の意識の中に定着している。
- ・ゲームを長時間する割合が増えていた。
- ・地域の行事への参加や関心が減ってきている。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○昨年度の国語科から算数科に絞った校内研究の実施  
・本校主題研修のめあてを『授業時間内ですべての子どもにわかった、「できた」を保障しよう。』とし、「基礎基本の力を育成する授業づくり」を主題とした。そのために、手立て1:「めあて」と「まとめ」を子どもと明快にする。手立て2: 個に応じる机間指導をする。個人差に対応する。手立て3: 適用問題を必ず時間内に行う。こととした。

○学力向上のため補充タイムを実施  
・全学級で火曜日・金曜日、放課後すぐに15分間の補充学習を行う。学力定着サポートシステムを活用し、国語科・算数科の基礎・基本定着問題に取り組む。診断問題も取組み集計結果の入力を行い、個人や集団のつまずきを把握し、補充学習や授業改善に役立てる。そのために、昼休みの短縮を行い、校時の変更を行う。

○3年生以上は、「ひまわり学習塾」の実施  
・希望する児童を対象に放課後「ひまわり塾」を毎週月曜日・水曜日に実施し、国語科・算数科の練習問題に取り組む。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○生活習慣・学習習慣の質の向上  
・「家庭学習チャレンジハンドブック」等を活用し、自分で計画を立てて家庭学習ができるように指導する。  
・高学年を中心に自主学習ノートの取組を行うとともに、よい見本を掲示し、意欲を喚起する。  
・生活習慣・学習習慣の重点週間を保護者と連携して行い、より良い生活習慣・学習習慣の定着を図る。  
・学校だより、学年だより等で啓発する。

○小中で連携して学力向上に取り組む  
・夏休みの合同研修会で互いのスクールプランの交流を行い、成果と課題を確認し合い、日々の授業・生徒指導等に役立てる。  
・相互に授業参観等を行い、実践をふり返るとともに、互いの良さを交流する。  
・特別な支援を必要とする児童生徒の情報交換を行い、家庭との連携や有効な手立てを交流する。

○地域行事等の啓発  
・地域やPTAと連携して行事の紹介や関心をもてる工夫をする。